

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-019568

(43)Date of publication of application : 23.01.1996

(51)Int.Cl.

A61F 13/02

A61F 13/00

(21)Application number : 06-153429

(71)Applicant : SEKISUI CHEM CO LTD

(22)Date of filing : 05.07.1994

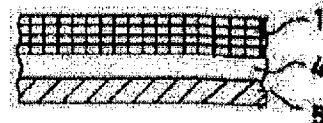
(72)Inventor : YONEKURA MASAYUKI

(54) ADHESIVE BANDAGE

(57)Abstract:

PURPOSE: To satisfy the hand-cutting ability of an adhesive bandage composed of stretchable base fabric and an adhesive layer formed over the base fabric, so as to improve the workability and usability upon emergency, by using cotton fabric which is textured with a specific beating number of yarns in each of in longitudinal and lateral directions.

CONSTITUTION: An adhesive bandage adapted to be medically and sportingly used, is composed of stretchable base fabric 1 and an adhesive layer 4 formed over the base fabric 1 which is cotton fabric textured with 70 denier yarns of a weaving number of 20 to 35/25 mm in a longitudinal direction and 40 to 80 denier of cotton yarns of a weaving number of 30 to 50/25mm in a crosswise direction. Urethane rubber, polypropylene rubber or the like is used as a span. Accordingly, the bandage can be easily hand-cut, and is composed of released paper and an adhesive layer 4 laminated with the former, and is formed in a roll-like or a sheet-like shape.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-19568

(43) 公開日 平成8年(1996)1月23日

(51) Int.Cl.⁶A 6 1 F 13/02
13/00

識別記号 庁内整理番号

3 1 0 A
3 5 5 D

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平6-153429

(22) 出願日 平成6年(1994)7月5日

(71) 出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72) 発明者 米倉 正行

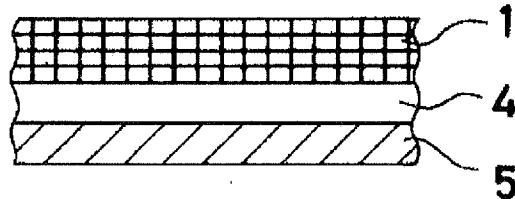
兵庫県尼崎市武庫豊町3-5

(54) 【発明の名称】 粘着包帯

(57) 【要約】

【目的】 手切れ性が良好な粘着包帯を提供する。

【構成】 伸縮性の基布と、前記基布上に形成される粘着剤層とからなる粘着包帯であって、前記基布が、縦方向に、スパンに綿糸を巻き付けた太さ60～80デニールの糸を打ち込み本数20～35本/25mmに織物加工し、横方向に、太さ40～80デニールの綿糸を打ち込み本数30～50本/25mmに織物加工した綿布である粘着包帯。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 伸縮性の基布と、前記基布上に形成される粘着剤層とからなる粘着包帯であって、前記基布が、縦方向に、スパンに綿糸を巻き付けた太さ60～80デニールの糸を打ち込み本数20～35本/25mmに織物加工し、横方向に、太さ40～80デニールの綿糸を打ち込み本数30～50本/25mmに織物加工した綿布であることを特徴とする粘着包帯。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、医療用、スポーツ用等に使用される粘着包帯に関する。

【0002】

【従来の技術】粘着包帯は、捻挫、肉離れ等の患部を固定するためや、スポーツ時のテーピング等に使用されるものであり、包帯を伸ばしながら使用するため、基材として縦方向に伸縮性を有する基布が使用されている。従来の粘着包帯では、縦方向に、スパンに綿糸を巻き付けた太さ60～80デニールの綿糸を20～35本/25mmに織物加工し、横方向に、太さ30～50デニールの綿糸を20～30本/25mmに織物加工した綿布が基布として使用されている。

【0003】ここに、縦方向とは、粘着包帯がロール巻きされる方向をいい、横方向とはその方向と垂直な方向をいう。また粘着包帯は、通常、ロール巻きされており、必要とする長さにカットして使用される。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところが、上記粘着包帯は横方向の糸の本数が少ないため、横方向に手でカットすることができず、ハサミを用いてカットしなければならないため、作業性が著しく悪く、特に緊急を要する場合に問題があった。本発明は、上記を鑑み、手切れ性が良好な粘着包帯を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するための手段を説明すると、本発明の粘着包帯は、伸縮性の基布と、前記基布上に形成される粘着剤層とからなる粘着包帯であって、前記基布が、縦方向に、スパンに綿糸を巻き付けた太さ60～80デニールの糸を打ち込み本数20～35本/25mmに織物加工し、横方向に、太さ40～80デニールの綿糸を打ち込み本数30～50本/25mmに織物加工した綿布であることにより特徴づけられる。

【0006】本発明の粘着包帯は、伸縮性の基布と、この基布上に形成される粘着剤層とからなる。上記基布は、図1に示すように、縦方向に、スパンに綿糸を巻き付けた太さ70デニールの糸2を打ち込み本数20～35本/25mmに織物加工し、横方向に、太さ40～80デニールの綿糸3を打ち込み本数30～50本/25mmに織物加工した綿布1である。上記スパンとして

は、例えば、ウレタンゴム、ポリプロピレンゴム等が挙げられる。

【0007】縦方向において、糸の太さが60デニール未満で、かつ打ち込み本数が20本/25mm未満の場合、伸縮性が低下し、逆に糸の太さが80デニールを超えて、かつ打ち込み本数が35本/25mm未満を超える場合、手切れ性が困難となりかつ製造コストが上昇するので、上記範囲に限定される。

【0008】横方向において、綿糸の太さが40デニール未満で、かつ打ち込み本数が30本/25mm未満の場合、粘着包帯を手でカットする際に基布が伸びてカットできず、逆に綿糸の太さが80デニールを超えて、かつ逆に打ち込み本数が50本/25mm未満の場合、粘着包帯を手でカットすることができないので、上記範囲に限定される。上記粘着剤層には、従来より使用されている粘着剤が用られ、例えば、アクリル系粘着剤、天然ゴム系粘着剤、合成ゴム系粘着剤等が挙げられる。

【0009】本発明の粘着包帯は以下のように作成される。まず離型紙上に粘着剤を塗布し乾燥させることにより、予め粘着剤層を形成する。次いで図2に示すように、この離型紙5上の粘着剤層4と上記伸縮性の綿布1とを貼り合わせて粘着剤層4と綿布1とを密着させ、粘着包帯を得る。本発明の粘着包帯においては、基布だけでは手でカットすることは困難であるが、基布上に粘着剤層を形成することにより、容易に手でカットすることが可能となる。

【0010】本発明の粘着包帯は、通常、離型紙が粘着剤層に積層されたままロールに捲くか、又は、シートに切断される。また離型紙を剥して粘着包帯をロール巻きにする場合には、基布に粘着剤層が付着しないように、基布裏面に予め離型剤被覆等を施すことが好ましい。離型紙は、粘着剤層の汚染を防止することにも役立つ。使用時には、この離型紙を剥して粘着剤層を患部に貼付する。

【0011】

【実施例】以下に実施例を掲げて本発明を詳細に説明するが、本発明はこれらの実施例のみに限定されるものではない。

【0012】実施例1、比較例1～8

スパンとしてウレタンゴムを使用し、縦方向に、ウレタンゴムに綿糸を巻き付けた70デニールの糸を28本/25mmに織物加工し、横方向に、表1に示す太さの綿糸を表1に示す打ち込み本数に織物加工した綿布を基布として使用した。一方、粘着剤としてアクリル系粘着剤を用い、離型紙上にこの粘着剤を塗布し乾燥させることにより予め粘着剤層を形成した。次いで、この離型紙上の粘着剤層と上記伸縮性の綿布とを貼り合わせて粘着剤層と綿布とを密着させ、粘着包帯を得た。

【0013】得られた各々の粘着包帯について、伸縮性、手切れ性及び外観を以下のように評価した。その結

果を表1に示した。

○：良い

△：やや良い

*×：悪い

【0014】

* 【表1】

	実施例	比較例							
	1	1	2	3	4	5	6	7	8
糸の太さ (デニール)	80	28			60		85		
打ち込み本数	40	25	40	60	25	60	25	40	60
伸縮性	○	○	○	○	○	○	○	○	○
手切れ性	○	×	△	×	×	×	△	×	×
外観	○	×	△	△	×	○	×	△	△

【0015】表1より、横方向に、太さ40～80デニールの綿糸を打ち込み本数40本/25mmに織物加工した綿布を基布とした粘着包帯が、伸縮性、手切れ性及び外観に優れていることがわかる。

【0016】

【発明の効果】以上の説明で明らかなように、本発明においては、手切れ性が良好であるため、特に緊急時の作業性が良好となるだけでなく、伸縮性及び外観にも優れた粘着包帯を提供することができる。

※【図面の簡単な説明】

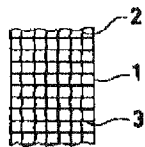
【図1】本発明の粘着包帯の基布の概略図。

【図2】本発明の粘着包帯の構成を示す断面図。

20 【符号の説明】

- 1 基布
- 2 縦方向のспанに綿を巻き付けた綿糸
- 3 横方向の綿糸
- 4 粘着剤層
- 5 離型紙

【図1】



【図2】

